



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.4.18 No. 3202

賞金に褒に破りスト

あいた口がふさがらぬのゆ着

1990年(平成2年)4月14日



国労などスト時に勤務応援

JR東日本が褒賞金

スト中の勤務者に「褒賞金」

JR東日本
国労など反発

JR総連革マル解体こそ

勝利の道

三月三十一日、JR千葉支社は、千葉運転区支部の繁沢支部長に対し、強制配転の通知を行い、加えて不当処分を通告し、押垂書記長に対して事故を理由に重処分を加え、四月十日には繁沢支部長を理由も告げずただの紙きれ一枚で幕張電

車区への強制配転を強行してきた。
千葉支社の狙いは、運輸職場の拠点、千葉転の役員を狙いうちし、組織破壊・組合潰しを目的としたものであり、断じて許すことはできない。

悪らつと増す 千葉支社

千葉転増しぶつとばせ
繁沢支部長に強制配転

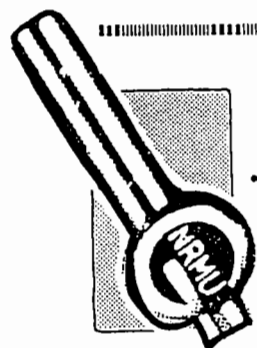


劣劣者を物 扱いする当局

当局は、三月決戦ストの爆発にうちのめされ、そのとりもどしをかけてより悪どい攻撃、強権的支配へと自らをかりたてている。

二月、津田沼浜野支部長を蘇我駅そば店に転ばし、今度は、千葉転の支部長を切り取り排除にのりだした。組合潰しのためのみ、労働者一人間を物のように右から左へと紙きれ一枚で吹き飛ばすような横暴を、どうして黙過できようか。
こうしたことがまかり通つたら、労働者の生活も、権利もすべて破壊・強奪されてしまう。

不当処分 弾劾!



JR当局は、三月二十七日、訓告・嚴重処分を合わせて全国で一三〇〇名、千葉支社内では、動労千葉組合員二〇名、国労五名に出してきた。
各現場での追及の中で、当局は「服装違反」「組合バッジが問題」と言明している。だが、処分された仲間には他の「社員」同様の服装をしているのであり、「服装違反」はとってつけた詭弁にすぎない。

革マル永島をかばう当局

醜悪なJRのなかで、特に醜いことは、JR総連をダンシにして、差別・選別、労働組合敵視を当り前顔でつづけていることである。
動労千葉の役員であるという唯一の理由でポロクずのように扱い、片や千転革マルの永島のように衆人皆見の中で暴れまわり職場放棄までも、何一つがめられることなく、逆に当局が永島をかばうという、醜くオドロオドロしい現実こそ、JRの実態である。

われわれはキツパリと断言する。三月決戦ストはJ

当局は、組合潰しが失敗し、ますます動労千葉、国労の団結が固まっていることとにせり、「屈服しない者には処分を潰せ」とばかりに見せしめ処分を加えてきたのである。
だがわれわれは、こんな攻撃に歩たりともひるむものではない。怒りを力にかえて、九〇年代の新たなたたかいを前進するだろう。卑劣な千葉支社に弾劾の嵐を!

R総連に決定的痛打をあげ、絶対絶命の危機に突き落したことを。JR体制の最弱のポイントが革マルとの結託にあることを多くの労働者・人民がはつきりと見ぬいてきたことを。
一握りの革マルに支配されたJR総連の解体・一掃は全く可能であり、たまたかのエネルギーと怒りは全国に満ちあふれているというのである。

悪辣な当局の差別、強権支配への怒りを今こそJR総連解体に集中させるときである。